

国指定重要文化財 札幌市時計台

時計台の鐘

第 84 号

特定非営利活動法人

さっぽろ時計台の会

会 長 谷 征 輝

札幌市中央区北1条西2丁目

時計台内

TEL 011-251-5944

北海道文化財保護功労者賞受賞に当たって

会 長 谷 征 輝

令和元年10月28日、一般財団法人北海道文化財保護協会から、令和元年度の北海道文化財保護功労者賞を拝受いたしました。この栄誉は、永年に亘り札幌のシンボルである時計台をささえる活動に尽力された先達、関係各位、会員皆様のご功績の賜物であり、深く敬意と感謝の意を表するものであります。

振り返ってみますと、北海道大学の前身の札幌農学校の演武場として明治11年（1878年）に完成した時計台は明治39年（1906年）に現在地に移転しました。

昭和30年代後半に、再度時計台の移転論が始まり、昭和50年（1975年）現地保存を願う文化人が中心となって「時計台を守る市民の会」を設立。

その後、平成16年（2004年）に「さっぽろ時計台の会」と改称、翌年の設立30周年に「NPO法人さっぽろ時計台の会」として認可されました。

設立時は、周辺の清掃や室内標識の設置、時計塔の保守活動が中心で、その後記念パレードやのみ市の市など時計台外の催しも実施していましたが、今は児童絵画展や演奏会などを開催、時計台記念品の委託販売事業も行っております。

この受賞を機に、本会の活動の精神を推進するため、会員の増強に積極的に取り組み、将来を見極める基礎の確立を目指し、市民にアピールしていきたいと考えております。

また、子どもたちに遺産を引き継ぐとともに愛護の心を育んでいく活動を進めてまいりたいと思っております。

先達の崇高な精神のもと、会の歴史に残るその足跡に思いを馳せ、札幌のシンボルであり、記憶であります時計台の愛護、伝承の啓蒙活動を積み重ね、より一層精進していかねばならぬと意を強くしているところであります。



2020年2月11日の時計台

第38回(令和元年)

時計台まつり記念行事

時計台創建141周年記念式典・

児童絵画展表彰式

10月16日(月)の時計台創建記念日に式典を開催、初めに出席者全員で「時計台の鐘」を斉唱し「札幌市民憲章」を唱和しました。谷会長の挨拶の後、来賓を代表して、札幌市有塚広之市民文化局文化部長より、祝辞と秋元克広市長のメッセージを頂戴いたしました。引き続き児童絵画展の表彰式を行い、来賓の方々から賞状、記念品が授与され、お祝いと励ましの言葉をいただきました。



有塚文化部長から市長賞を授与



受賞者の皆さん

記念演奏会

各種ジャンルの音楽コンサート等を5回実施しました。

演奏会の最後には全員で「時計台の鐘」を合唱し、時計台をより市民に親しんでもらうことが出来ました。

六月二十八日(金) ピアノ三重奏の夕べ

辻 千絵、福井岳雄、中川恵美

七月二十六日(金) 札幌ハーモニカ倶楽部

コンサート

八月三十日(金) ヴォーカルディオ ヒー

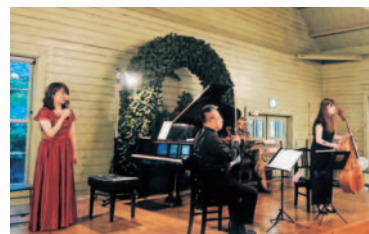
トボイス 目黒広幸、伊藤カズヒロ

九月二十七日(金) クラリネットとピアノ

コンサート 大橋真紀、矢原美帆子、岩井

沙織

十月十六日(月) 日本伝統芸能の夕べ 山口千那他



ピアノ三重奏



クラリネットとピアノ



札幌ハーモニカ倶楽部



日本伝統芸能



ヒートボイス

裏千家淡交会による呈茶

10月12日(土)、

茶道裏千家淡交会札幌第四青年部の方々に、来館者のお茶の接待をしていただきました。お客様は思い掛けないおもてなしを楽しんでおられました。



児童絵画展

札幌市長賞



「北海道の象徴」

札幌市立緑丘小学校

6年

佐藤

総

北海道新聞社賞



「みんな大好き赤レンガ」

札幌市立白楊小学校

5年 北川 将成

北海道新聞社賞



「うかびあがるとけいだい」

札幌市立伏見小学校

2年 芦立なつめ

札幌時計台賞



「りっぱな時計台」

札幌市立月寒東小学校

5年 齋藤絵美里

札幌市教育委員会賞



「北大第二農場」

札幌市立手稲中央小学校

6年 市村 優衣

札幌時計台賞



「時計台の風景」

札幌市立福住小学校

4年 森 詩織

昨年度より、応募者数が少なかったが、札幌市造形教育連盟の審査委員の先生から、「子どもたちの『思い』や『感動』が伝わってきた」等の講評をいただき、展示会を通して郷土札幌、時計台を愛する子どもたちの「心」が伝わったものと思います。

NHK札幌放送局賞



「青空広がる時計台」

札幌市立東園小学校

6年 伊藤 弥月

入選

札幌市立宮の森小学校
札幌市立豊園小学校
札幌市立資生館小学校

6年
4年
3年

白城
城三
鳥沢

桃理
歌仁
佳

銅賞

札幌市立宮の森小学校
札幌市立福住小学校
札幌市立平岡小学校
北海道教育大学付属札幌小学校

4年
4年
3年
1年

谷高
口橋
内田
大野

心怜
都花
彩菜
圭花

銀賞

札幌市立美しが丘緑小学校
札幌市立北園小学校

3年
2年

大西
堀内

優芽
美里

金賞

札幌市立美しが丘緑小学校
札幌市立北園小学校

3年
2年

大西
堀内

優芽
美里

北海道文化財保護功労者賞(団体)を受賞する

を受賞する

令和元年10月28日、当会が札幌市時計台の愛護活動を長年続けていることが評価され、北海道文化財保護協会から、令和元年度の北海道文化財保護功労者表彰を受けました。1965年から表彰を始め今年で55回目。1個人4団体が受賞しました。



かである2・7で行われた表彰式には谷会長と池田理事が出席し、谷会長から「時計台の愛護、伝承の啓蒙活動に精進していきたい」と謝辞を述べました。

北海道信用金庫ひまわり財団の

助成事業に選定される

令和元年12月23日、一般財団法人北海道信用金庫ひまわり財団の令和元年度地域の社会福祉法人並びに社会福祉に係る団体・個人に対する助成金の交付団体に選定され、助成金をいただきました。北海道信用金庫執行役員・営業推進部長でひまわり財団事務局長の坂井知成様が来館され谷会長が目録を受け取りました。



令和元年度の主な活動

- 5月10日 第1回理事会
15日 通常総会
17日 (株)小六感謝状贈呈
23日 第1回時計台まつり実行委員会
31日 ・札幌市、北海道新聞社に記念行事負担金交付申請
・札幌市、札幌市教育委員会、札幌市小学校長会、札幌市中学校長会、北海道新聞社、NHK札幌放送局に後援名義申請、
・札幌市、教育委員会、北海道新聞社、NHK札幌放送局に特別賞出賞の依頼
- 6月6日 児童用小冊子「札幌市時計台なぞ？ふしぎ？探検」を市内小学校宛送付（市友会との共催事業）
20日 市内小学校へ児童絵画展作品募集案内
28日 第1回時計台まつり記念演奏会
7月20日 北海道新聞に児童絵画展作品募集掲載
26日 第2回時計台まつり記念演奏会
8月24日～9月6日 児童絵画展作品受付
30日 第3回時計台まつり記念演奏会
9月19日 北1条通オフィス町内会セーフティ＆クリーン大作戦参加
27日 第4回時計台まつり記念演奏会
29日 児童絵画展作品審査会
10月1日 時計台売店の電子レジスタースマレジ導入
7日～16日 児童絵画展優秀作品展示
12日 裏千家淡交会による呈茶
16日 時計台創建141周年記念式典・絵画展優秀者表彰式
28日 第5回時計台まつり記念演奏会
北海道文化財保護協会から北海道文化財保護功労者の表彰を受ける
31日 まちづくり活動情報サポートサイト「まちさぼ」取材対応
12月6日 第2回時計台まつり実行委員会
23日 第2回理事会
北海道信用金庫ひまわり財団助成事業の助成先に選定され助成金を贈呈される（時計台）
3月25日 会報「時計台の鐘」発行

文化講演会の人々 時計台寸描 ⑫

木原直彦

中島公園に移設している豊平館は札幌の殿堂であつたが、一方、札幌農学校の演武場だった時計台のほうは一貫して札幌の文化施設としての中核を担っていた。

一例として講演会をあげてみよう。当時、そのための会場がいかに貴重だったことか。

演武場のときには国際人新渡戸稲造が「札幌の学生に忠告」と題して講演したが、明治三十六年（一九〇三）に札幌区に移管してからは有島武郎「今の芸術の爲めに」や親友の森本厚吉らが壇上に立ち、早稲田大学の高田早苗総長も講演を行なっている。

大正（一九一三）に入ると、新渡戸らと二期生として卒業したキリスト者の内村鑑三がクラーク博士について語り、小林幸太郎、岩谷英太郎、安芸右代、南鷹次郎、河野常吉、島村抱月、高岡熊雄、八田三郎、植村正久、榎山栄次、俵孫一、松村松年、田所哲太郎、東武、小熊捍、嘉納治五郎、山室軍平、吉野作造、浅沼稻次郎、大町桂月、海老名弾正、賀川豊彦、佐藤昌介、

三木露風、宇野哲人、大山郁夫、長谷川加是閑、鳴海要吉、若山牧水といった実に錚錚たる人たちが様々な形の催しで登壇している。

昭和（一九二六）に入ると宇野親美、石原純、宮部金吾、伊藤整、阿部知二、春山行夫、山下秀之助、小田観瑩、田辺杜詩花たち。戦後（一九四五）では高倉新一郎、逢坂信吾、半澤洵、星野勇三らの名をあげられる。

時計台の歴史を追ってゆくと「昭和37年（一九六二）・時計台移転論おこる」という記事にぶつかる。この頃になると、市内における講演会場が増えてゆくと共に時計台での講演会は減るわけだが、それはそれとして、移転論で時計台は激変に見舞われたのだった。

そこで一つだけ記しておく、その渦中で任意団体の「時計台を守る市民の会」（高倉新一郎会長）が誕生した。昭和五十年（一九七五）のことで、言うまでもなく今の「NPO法人・さっぽろ時計台の会」の前身である。（当会名誉会長）

令和2年度 記念演奏会予定

- ・6月26日(金) バリトン、ピアノ、アコーディオンによる演奏
 - ・7月24日(金) ひろくる with 久保達男
ハーマニカ合奏
 - ・8月28日(金) 札幌ハーマニカ倶楽部
ピアノ三重奏 辻千絵他2名
 - ・9月25日(金) アンサンブル
陸上自衛隊 北部方面音楽隊
 - ・10月16日(金) 琴による演奏 琴・ドレミニ・琴アンサンブル「セシリア」
- 申し込み方法等は別途案内いたします。

事務局だより

令和元年10月1日、消費増税に伴う更改費用などを総合的に検討し、売店に電子レジスタースマレジを導入しました。

販売・集計作業が容易になり、またデータの分析等、商品管理を含めた売店の運営に対する効果が期待されます。

なお、導入資金については、(株)小六様の寄付金を活用させていただきました。

理事の岡本征之さんから「令和二年は北海道開拓等に身を注いだ黒田清隆開拓長官の生誕百八十年（没後百二十年）を迎える。札幌農学校創建のためにクラーク博士を招聘、創建日に演武場に時計を設置するように指示、時計台創建日の十月十六日は本人の旧暦の誕生日にあたる」と時計台との関わりなど、徳川、明治の乱世を駆け抜けたその生い立ちを含め、詳しく教示いただきました。

この機会に多くの方に黒田清隆の功績を知っていただければと願っています。

◆さっぽろ時計台の会 HPアドレスです。

<http://sapporotokeidai.sakura.ne.jp>